

令和8年1月20日

和泉市長 辻 宏 康 様

和泉市総合計画審議会
会長 水上 啓吾

第6次和泉市総合計画（素案）及び
第3期和泉市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について（答申）

令和7年10月27日付け和泉政企第1658号で諮問のあった「第6次和泉市総合計画（素案）及び第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）」について、別添のとおり、答申します。

今後、計画策定にあたっては本答申及び附帯意見を十分尊重され、計画を推進されますようお願いいたします。

（附帯意見）

1 将来都市像について

- 将来都市像は、和泉市がめざす将来のまちの姿であり、総合計画の象徴的な部分として、本審議会にて特に多角的に議論された項目である。「住めば住むほど好きになる ちょうどいいまち 和泉」というキャッチフレーズについては、住民が和泉市での生活を通じて市への愛着を深め、その評価が緩やかに市外にも波及していくことを示した案であるが、「原案は本市市民を意識した内向きな表現にとどまり、他市住民への訴求力に欠ける」との意見もあった。

- 本審議会としては、計画素案策定までの過程を踏まえ、限られた時間の中で議論を重ねた結果、最終的に原案とすることで決したところである。しかしながら、少子高齢化・人口減少は全国的な課題であり、本市においても人口構成の深刻な変化は避けられない状況にある。今後も持続的発展をしていくためには、市外の人々にも選ばれるまちをめざす姿勢は重要であるため、上記意見も斟酌した取組を期待する。

2 総括

- 全国的な少子高齢化・人口減少が進展する中で、本市が持続可能な発展を遂げるためには、市の魅力を向上させることに加え、若年世代及び子育て世代を中心とする住民の転出抑制と転入促進に果敢に取り組むことが肝要である。
- 防災、福祉、子育て、教育、都市基盤整備など様々な施策の充実を図り、本計画の目標とする市民の満足度向上に向けて全庁を挙げて取り組んでいきたい。
- 本計画の進行管理にあたっては、効果的な評価の仕組みを構築し、施策・事業の改善を図るとともに、健全な財政を維持し、計画達成に向け邁進することを強く期待する。